

学生大使 実施報告書

氏名: 森 文乃

学部・学科(コース)・学年: 人文社会科学部人文社会科学科グローバル・スタディーズコース・1 年

派遣先大学: ガジャマダ大学

派遣期間: 2 月 26 日～3 月 12 日

1 日本語教室での活動内容

現地学生の日本語の習得度レベルに合わせた授業を行うように心がけた。山形大学生が 16 人と多かったため、少人数のグループに分けて授業を行えたのが強みだったと思う。初日はやり方がわからずグダグダになってしまっていたが、16 人で話し合いの場を設け、ひらがな・カタカナ担当、会話担当、漢字担当に分けて授業を行ったところ非常にスムーズな進行となった。ひらがな・カタカナを教える際は、主に読み方と書き順の指導をした。“ね”と“わ”や、“ぬ”と“め”など、形が似ているものは特に注意して教えた。カタカナの応用としてはオノマトペを教えた。日本では多く使われているがインドネシアではそれほど使われていないようで、不思議そうでありながらも楽しんで学んでいた。特に印象深かったのは猫の鳴き声で、日本では“ニャーニャー”だが、インドネシアでは“ミャオミャオ”が一般的なようで、違いが面白かった。会話は、自己紹介の仕方や、挨拶の仕方、疑問形を教えた。簡単な例文も添えることで理解しやすかったようである。漢字は小学一年生で習うような基本的なものを教えた。漢字に関しても書き順を間違わないように気をつけて指導した。文化交流会では折り紙、習字、けん玉、あやとり、かるたのブースを設け、いろいろな日本文化を体験できるように心がけた。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室は午前と午後の二回あったので、その間の時間は学食でご飯を食べて過ごした。放課後はショッピングモールに行ったり、各自部屋で過ごしたり、一回に集まってカードゲームをしたりした。トランプや UNO を日本から持参して遊んだが、ルールがほとんど同じで、世界共通の遊びであることに感動した。土日は授業がお休みだったため、バスに乗って遠くまで出かけた。一週目は、世界遺産であるボロブドゥール遺跡に行き、その土地の歴史について学んだ。翌日は宮殿にも行き、結婚式で着る伝統衣装や、料理などの展示を見た。日本との違いを感じて興味深かった。また、伝統的なバティックの体験もした。現地の方は簡単そうに描いていたが、実際やってみると大変難しかった。バティックは日本円で約 2000 円で売られていたが、作る苦労を考えるとかなり安く感じた。多くの現地の方々は日頃からバティックを着ていて、インドネシアではかなり身近にある存在であることが分かった。二週目は海に行った。日本では濡れるとなかなか乾かずに風邪をひいてしまいがちだが、インドネシアは暖かいので濡れることをあまり気にせず楽しむことができた。その後は伝統的な劇を観た。クライマックスには花火が上がり、とても綺麗だった。翌日は動物園に行った。日本ではなかなか見ることのできないネコ科の動物がいたり、熱帯ならではの爬虫類が多く展示されていたりして面白かった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回このプログラムに参加するにあたり、「教える人にあったレベルの授業を行う」と、「何事も楽しんでいろいろな経験をする」という個人的な目標を立てて挑んだ。一つ目の目標に関しては、少人数のクラス分けをして授業を行えたためおおよそ達成できたと考える。だが、ほかの人に比べると授業の進度が早かったように感じるため、反省している。また、英語が思うように出てこず、自分で文章を作ってくださいと言いたかったのに伝わらなかったことがあったので、事前準備が足りなかったように感じた。だが、質問には詳しく答えることができ、生徒の方々も楽しそうに授業を受けてくださったため、だんだんと良い授業づくりができていたと思う。二つ目の目標に関しては、日本ではできない体験を自ら進んでやろうという気持ちを持って過ごしていたため、満足のいく結果となった。例えば、現地の学生や、バディの方に自分から話しかけ、親睦を深めた。また、授業に遅れそうだったためスクールの中を走ったり、トロピカルフルーツに挑戦してみたり、女性が頭に巻いている「ジルバブ」というものを巻かせてもらったりした。日本では絶対に座らないが、現地の人たちと一緒に床に座って話したのも良い思い出だ。「～したくない」と決めつけるのではなく、「～してみようかな」とラフに考えることが大切だと思った。

4 プログラムに参加した感想

渡航前は不安だらけで、渡航後数日間も日本が恋しい日々だったが、最終日にはもっと滞在したいと思えるほど充実した日々だった。学生のうちにしか体験できないことがしたいと思い参加したプログラムだったが、参加してよかったと心から思う。断食やお祈りの時間があり、日本とは全く異なる生活をしている彼らだが、話してみると私たちと同じような趣味・思考を持っている学生だった。日本と違うところを挙げるとするならば、自分の意見を迷わず伝える人が多い点だろう。日本語クラスの際も、疑問に思ったところはすぐに質問し、理解しようという姿勢が多くみられ、彼らの日本語を学ぼうとする意欲に感銘を受けた。自分ももっと真剣に勉学に取り組まなければと思った。また、この二週間は以前よりも寛容に過ごせていたと感じる。今までの自分なら焦ったり、いらいらしたろう思えることも、インドネシアの方々の楽観的な考えを見習い、何とかかなと思えるようになった。この二週間は私にとってとても価値のある経験をした二週間であった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

以前から異文化に興味があったが、このプログラムを通してさらに興味を持った。狭い世界にとらわれることなく、もっと広い視野で物事を考え、様々な人と関わりを持てる人になりたいと思った。また、日本とインドネシアだけでなく、様々な国を比較して、その違いを探っていきたいと思った。

6 現地での活動写真

写真1

授業の様子



写真2

最終日



【学生大使 実施報告書】

写真 3

パティック体験



写真 4

学食

